編集後記

米国の大学では，優秀な教員を採用し，その後も確保するため，提示する給与の額が大学間で競争になり，しかもその額が年々上昇しているそうである．助教や講師など若い教員の採用においても同様である．私はこの状況にはいささか違和感がある．

井上達夫氏（東京大学法学政治学研究科教授）の「知は所有できるか」（科学 Vol. 78，No. 9，p. 1, 2008）には，「研究者は仙人でもない以上, 経済的利益に無関心ではないが，それは彼らの唯一の活動動機ではなく，通常は最も重要でもない．名誉心もあるが，それだけではなく，研究・表現活動自体に内在する喜び，自己の業績・作品が広く受容・利用され，学問芸術のさらなる発展に貢献するのを見る喜びも（研究活動の）きわめて重要な動機付けとなる」とある．

研究者・技術者は，給与の面では「人並み」の暮らしが確保されていれば良い．研究の努力や成果に対し優遇されることは拒まないが，その客観的評価が難しいことは知っている．しかし，給与の額よりも大切なものがある．それは，「自然・生命の真理」の探究の感動，「社会への貢献」による充実感であろう．それらを拠り所に日夜努力し，やがて成果が出る．99 回実験に失敗し，試行錯誤の後に最後の 1 回に成功し，他人がまだ見ていない現象を目の前で発見できれば，あるいはまだ誰も実現していない技術を自分の手で創出できれば，それが「至福の喜び」であろう．それが社会へのインパクトも持てば，社会からも賞賛が得られる．ささやかであっても良いのである．中学・高校の教科書に名前入りで紹介されるなど，（大概の場合は本人の他界後となるが）歴史に名前を刻むことができれば，それも良いだろう．

日本の国立大学は予算全体が限られ，今後も毎年 1% 以上減額されていくにもかかわらず, 例によって米国に倣い，優秀な教員には高い給与を払うことを検討し，既に実施している機関もある．一度上昇したら給与を下げることは難しいだろう．古い考えかもしれないが，研究者は，成果が出て収入が増えたり特許料が入ることは拒まないが，決して，自身の金儲けや高い給与を得ることを目的として研究するのではないと期待したい．そういう内容を学生や次世代の研究者には説明している．

医学の分野で言えば，生命は，地球の歴史の初期に誕生し，現代のわれわれの目が眩むような多様性を自ら獲得してきた．研究者・技術者は，それらの「生命・自然に備わる驚異」の背景にある真理の探究を通じ，人類と社会を豊かにするために日夜努力している．

自然の創造主である神は，その「純粋で真っ直ぐな気持ち」をもつ研究者・技術者には微笑むと私は信じている．

金井　浩
東北大学大学院工学研究科電子工学専攻
／医工学研究科医工学専攻

謝辞
2013 年 10 月 1 日～ 2014 年 9 月 30 日の間に，査読委員外で論文査読を行って頂きました先生方に感謝の意を表し，以下に御氏名を記載致します．

大西　俊成，奥野　敏隆，小野木真哉，石田　秀明，金田　智，木佐貫　彰，
櫻井　健一，篠塚　憲男，白川　崇子，西上　和宏，古川まどか，宮川めぐみ，
安河内　聰

（50 音順）

超音波医学
Japanese Journal of
Medical Ultrasonics
第 41 巻　第 6 号（通巻第 284 号）
Ⓒ　The Japan Society of Ultrasonics in Medicine
――禁転載――
本体価格　2, 000 円＋税（本誌購読料は会費に含まれます．）

平成 26 年 11 月 15 日発行
編集者　一般社団法人日本超音波医学会編集委員会　委員長　金井　浩
発行者　一般社団法人日本超音波医学会　理事長　工藤　正俊
〒　101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-23-1
お茶の水センタービル 6 階
TEL 03-6380-3711
FAX 03-5297-3744
印刷所　大村印刷株式会社